

令和3年度第1回生物多様性地域戦略部会 議事（要旨）

令和3年6月29日（火）
午後2時から午後4時まで
府中市役所北庁舎3階第3会議室

出席委員（9名）

対面 金子弥生委員（部会長）、佐藤之保委員、吉川正人委員、金本敦志委員、山田義夫委員、青山一彦委員、栗原昭良委員、吉武考三郎委員

リモート 江島大介委員

欠席委員（1名）

高野茂久委員

事務局

田中環境政策課長、扇山環境政策課長補佐（兼）管理係長、桑田環境政策課副主幹（兼）環境保全活動センター担当副主幹（兼）環境改善係長、白木自然保護係長、自然保護係中澤、環境改善係越智、環境改善係平塚

傍聴者

1名

議題

1 開会

2 議題

- （1）生物多様性地域戦略部会について
- （2）生物多様性地域戦略部会の日程について
- （3）生物多様性及び生物多様性地域戦略の概要について
- （4）府中市の概況と生物多様性に関する環境現況について
- （5）現行地域戦略の経過とこれまでの取組みについて
- （6）アンケート調査（案）について

3 その他

4 閉会

資料

- 資料1 府中市生物多様性地域戦略及び地域戦略部会の位置付け
- 資料2 府中市環境審議会生物多様性地域戦略部会の日程について
- 資料3 生物多様性及び生物多様性地域戦略の概要について
- 資料4 府中市の概況と生物多様性に関する環境現況
- 資料5 第1次府中市生物多様性地域戦略の概要とこれまでの取組
- 資料6 環境に関する市民アンケート調査（案）
- 資料7 環境に関する事業者アンケート調査（案）

その他

生物多様性地域戦略部会委員名簿
令和3年度第1回生物多様性地域戦略部会席次表

第2次府中市環境基本計画
第1次府中市生物多様性地域戦略
環境省「生物多様性地域戦略策定の手引き」
東京農工大学研究委託「武蔵台緑地植生管理ガイドライン」

配架資料

東京農工大学「府中市の植生 - 地域の自然環境と生物多様性の保全に
むけて - 」
東京農工大学研究委託「府中市の小・中学校校庭の植物相」
東京農工大学研究委託「学校の緑づくり」
浅間山を考える会「都立浅間山公園保全管理ガイドライン」
府中市「新府中市史自然分野報告書 府中の自然環境」

会議録（要旨）

【事務局】

定刻になりましたので、ただいまから、令和3年度第1回府中市環境審議会生物多様性地域戦略部会を開催させていただきます。

皆様、本日は大変お忙しいところ、ご出席いただき、誠にありがとうございます。私は、環境政策課自然保護係長の白木と申します。議題まで議事の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員皆様には本日より2年間、本部会のご審議にご参加いただくこととなります。長期間に渡りますが、何卒よろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、会場とウェブ会議システムを併用しての開催とさせていただきます。

ウェブ会議でご参加いただく方へ、改めてのお願いとはなりますが、注意事項をご説明します。

1点目に、音声の混線を避けるため、発言される時を除き、音声についてはミュート状態にしてください。

2点目に、ビデオについては常にオンとしてください。

3点目に、発言をする際は、ミュートボタンをオフにし、氏名を名乗って、「発言があります。」などご発声いただき、会長又は事務局より、指名がございましたら、その後ご発言ください。

委員の皆様におかれましては、ご協力よろしくお願いいたします。

また、会場にお越しただいております委員の皆様におきましても、ウェブ会議システムからご参加ただいております委員に、発言者の氏名が分かるようご協力をお願いいたします。

（配付資料の説明）

続きまして欠席者のご報告をいたします。

本日の会議に、高野委員より、やむを得ない事情で欠席の連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。

なお、本日の会議は出席委員数が過半数に達していることから、有効に成立することをご報告いたします。

【事務局】

それでは、議題に入ります前に、環境政策課長の田中より一言ごあいさつ申し上げます。

【事務局】

皆さんこんにちは。環境政策課長の田中と申します。本日はお忙しい中、また先日の審議会に引き続きご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

先日の審議会でご案内させていただきましたが、本部会につきましては、これまで環境基本計画の下位計画でありました生物多様性地域戦略を環境基本計画に内包するといったことで集中的に議論していただくために設けた部会でございます。さまざまな立場の方々

にご出席いただいております。皆さんそれぞれ日頃からの研究や取組、環境課題の解決に向けていろいろご意見をお持ちの方々であると思います。できるだけ広くそれぞれの立場からのご意見を承りたいと思っておりますので、短い時間ではございますが、できる限りそれぞれの方々からのご意見がいただけますよう、ご協力をお願いしたいと思っております。

簡単ではございますが、ごあいさつに代えさせていただきます。以上でございます。

【事務局】

続いて、すでに先日の審議会でごあいさついただいたところではございますが、本日は初回の部会になりますので、委員の皆様にも一言ずついただければと存じます。

自然環境保全に関するご経験や生物多様性に対するお考えなどがもしございましたら、併せてお聞かせいただければと思います。

それでは金子部会長から時計回りでお願いいたします。

* * 委員自己紹介 * *

【事務局】

委員の皆様ありがとうございました。

それでは、議題に移らせていただきます。ここから先の進行につきましては、第1回環境審議会本会において生物多様性地域戦略部会長に選出されました、金子部会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【部会長】

これから先は、私が議事を進行させていただきますので、よろしく申し上げます。

審議に入る前に注意点として、現在、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置発令中でありますので、発言は簡潔明瞭を心がけ、会議に要する時間の短縮にご協力くださいようよろしくお願いいたします。

はじめに、傍聴について、委員の皆様にお諮りしますが、府中市情報公開条例に基づき、原則公開となっております。

今日は傍聴人は、いますか？

【事務局】

本日の傍聴人は1名です。

【部会長】

入室を許可してよろしいでしょうか。

(委員の異議なしで、入室許可する)

(傍聴者入室)

それでは議題に入ります。

次第の「2 議題」の(1)「生物多様性地域戦略部会について」及び(2)「生物多

様性地域戦略部会の日程について」一括して、事務局から説明をお願いします。

(資料1～2を説明)

【部会長】

事務局から、(1)「生物多様性地域戦略部会について」及び(2)「生物多様性地域戦略部会の日程について」のご説明がありました。この2つについてご質問・ご意見がありましたら、お願いします。

【委員】

部会はいつも何時ぐらいから行うか分かっているのですか。今日みたいに午後2時からするのか、6時からするのか。

【事務局】

正式な決定はしていませんが、第2回は今のところ午後6時からの会議になるかと想定してございます。ただ、第3回以降に関しましてはずっと午後6時からかということ、それが決まっているわけではございません。第2回は午後6時以降が濃厚かなというところでございます。

【委員】

観察会が第1回、第2回と予定されています。観察の対象が浅間山公園と武蔵台緑地とありましたが、これはどちらも雑木林が主体の公園だと思います。府中市の生物多様性を考えたときに、この2つは水辺が完全にないのです。多摩川であったり、ほかの丘陵地であったり、府中市は多様な環境を有していると思いますので、環境の多様性というところでは、1か所目と2か所目はもう少し違う環境のほうがいいのかなと感じました。

【委員】

私も同様なことを感じました。浅間山と武蔵台緑地は府中市の主要な緑地なので、皆さんよくご存じで、多くの方が行ったことがあるのではないかと思います。多様性戦略ということを見ると、誰が見ても当たり前前に守らなければいけないような緑地だけではなく、もう少し身近な、例えば学校の敷地や、都市公園的なところで何ができるのかということを見ておくことも大事かなと思います。なので、多摩川なども含めて、観察会の場所に関してはもう少し考えていただいてもいいかなと思います。

【事務局】

ありがとうございます。今、仮に7月、10月で予定をさせていただいています。7月であれば開催したいと思っておりますが、新型コロナウイルス感染症の関係もあるので、都立公園で観察会が実施できるかというご相談もこれからはなければいけないところですが、浅間山公園もしくは武蔵台公園のどちらかという方向で考えさせていただきたいと思いません。

もう1回につきましては、皆様のご意見を伺ったうえで、改めて10月までに適切な候補地を見つけさせていただければと思いますので、一度お預かりさせていただいて、10月以降は今後決定していくということで、まず7月の雑木林の浅間山、武蔵台緑地から調整をさ

せていただこうと思います。

【部会長】

この観察会について日程は決まっていますか。7月といたらもうすぐ始まりますが。

【事務局】

観察会の日程につきましては、このあと皆様に再度ご連絡を取らせていただいております。お伺いしたいと思います。

その前に、任意のイベントということなので、参加のご希望も伺ったうえで日程の調整をさせていただこうと思います。後ほどまたご説明しますが、一番多くの方が参加できる日程で実施させていただくことになる可能性もありまして、ご希望に沿えない方も出てしまうかもしれませんが、ご了承いただければと思います。後日調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

【部会長】

この2つについて、ほかにご質問等がありますか。

(意見なし)

よろしければ、次の議題に進みます。(3)「生物多様性及び生物多様性地域戦略の概要について」から(5)「現行地域戦略の経過とこれまでの取組みについて」まで、一括して事務局から説明をお願いします。

(資料3～5を説明)

【部会長】

事務局から、(3)「生物多様性及び生物多様性地域戦略の概要について」から(5)「現行地域戦略の経過とこれまでの取組みについて」まで一括してご説明がありました。これについてご質問・ご意見がありましたら、お願いします。

【委員】

資料3は、環境基本計画の生物関係の最初のところに、こういう項目が入るという下書きのようなイメージですか。

【事務局】

今後、生物多様性地域戦略を環境基本計画の一部分に落とし込んでいく中で、生物多様性とは何かという部分の説明は必ず必要になってくると思います。ある程度下地になるものになるかとは考えておりますが、このままのものをそこに当てはめるということではございません。今回、この資料で基本的なところを共有させていただきますが、紹介の仕方として、こんな方法がいいのではないかと、こんな形の紹介をすると理解が深まるのではないかとというようなご意見がありましたら、それを踏まえてこの部分を作っていきたいと思っています。

【委員】

早速ですが、1つ加えていただきたい内容があります。1ページ目に「生物多様性の3つのレベル」、次に「生態系サービス」、次のページに「生物多様性の4つの危機」と、大体、教科書的にはこういうことが紹介されていますが、私はこれだけだと足りないと思っています。

あと2つ大事なことがあって、1つは生き物同士のつながりです。3つのレベルのところに、「種(しゅ)の多様性」とか「遺伝子の多様性」とか書いてありますが、これをバラバラに考えてしまうと、例えばムサシノキスゲは珍しいからそれだけ集めて大事にとっておけばいいねということになってしまいますけれども、種(しゅ)というのはそれだけで単独で成り立ってきたわけではなく、例えばこの写真にあるように花粉を運んでくれる虫がいたり、あるいは、ほかの生き物の餌になったり、身を守るための形態を獲得したりというような、ほかの生き物とのつながりの中で進化してできてくるわけですね。ですから、そういう生き物同士のつながりを断ってしまうと多様性は成り立たなくなるので、そういうつながりの概念を1つ入れていただきたい。つながりが大事だということです。

それから、もう1つのつながりは時間のつながりです。今我々が見ている自然は今ぼつとできているわけではなくて、過去からのつながりがあって、それがまた未来にもつながる。気候が温かくなれば分布は北に上がるし、寒くなれば下がるということを繰り返していく中で、この場所に居合わせたものがお互いに関係を結んで生態系をつくるというのが自然の成り立ちなのです。そういうふうにと考えると、府中の自然は府中でしか守れないわけですね。同じようなものが国立にある、国分寺にもあるから府中にはなくてもいいやということではなく、やはり府中というこの土地が経験してきた歴史の中でこの自然があって、府中にあるものは過去からのつながりを未来にもつないでいきましょうねというようなことが最初に書いてあるといいなと思います。

ですから、種同士のつながり、生き物同士のつながりと時間のつながり。その2つの概念をぜひ入れていただくことを希望します。

【部会長】

ありがとうございます。そうしたら、資料3の書きぶりは、またそういう地域の視点をに入れてブラッシュアップしていく。

【事務局】

はい。

【部会長】

ほかに資料3について、委員の皆様から何かありますか。

【委員】

今の委員のご意見に全面的に大賛成です。そういう意味では「第2の危機」のところにあるエゾシカの食害などは、どちらかというところ「里地里山の手入れ不足」云々というよりは、生き物同士のつながりが損なわれたことの要因になるのかなというところで、この項目は整理が必要なのかなと思います。

手入れ不足に対しては、雑木林だったり、竹林だったり、ため池のかいぼりだったりという方向で示していければいいのかなと思います。

【部会長】

事例等でこういう写真とか事象を載せる際に、東京都とか府中市の事例がもっと出るといいのかもしれないね。

【委員】

資料4の題目は「府中市の概況と生物多様性に関する環境現況」なので、9ページ[1.6 産業構造]に、府中市にどういう事業所があるか。事業所の大小とか1人事業所とか2人の従業員とか、東芝やNECみたいに何千人か何百人か、そういうのは全く関係なく事業所数だけ出して、府中市は賃貸業と不動産業が大部分を占めていてすごいのだとかいうのは何になるのですか。せめて従業員とか人数でこういう製造業が多いとか、例えば出荷量とか多いから環境に関してどうだとか、何かのくくりがないと、事業所数だけ取り上げて、ここから何が読めるのでしょうか。何か関係ないような感じがするのですが。

せめて第一次、第二次、第三次の就業人数何とかぐらいは記載する意味が分からないでもなくて、農業はどんどん就労人口が減っているから生物多様性にどうだとか、そこには少しはつながるのだろうと思うのですが、事業所数は関連性が見えないのでは。繰り返しますが、1人か2人のところだって事業所数に含まれるから、これを見ると府中市は不動産業だらけみたいですが、でもこんなのは大した人数はいないですよ。それが環境とか生物多様性に影響を何か及ぼしているのか。こんなのは関係ないのではないか。

【事務局】

こちらの資料につきましては、前段は府中市の概況ということで、生物多様性とか地球温暖化に絞るわけではなく、産業構造も含めて府中市の基礎的なデータをご紹介させていただいたものになります。

ですので、「1.府中市の概況」については、このあとの温暖化対策部会でも共通のデータを皆さんと共有させていただいているものになります。

生物多様性に特化して参考にしていくという意味では、「2.府中市の生物多様性に関する環境現況」のほうが直結するものかなと思います。ただ、「1.府中市の概況」に示したデータの中にも、もしかしたら生物多様性を考えていくうえでヒントになるようなデータがあるかもしれないというところがありますので、基礎的な情報は府中市の概況についても皆様とここで共有させていただいたというところでございます。以上です。

【委員】

お任せします。

【委員】

生物多様性と病害虫に対する薬剤散布とのバランスというか、そういう指標のようなものがどこにもないのですが、一般市民からするとその辺がどうなのだろうと。今日は農業従事者の委員さんがいらしていませんが、生物多様性を期待しながらも、病害虫に対する農薬散布とか薬剤散布のバランスが非常に大事なのではないかと思うのですが、ガイドラインか何かはあるのでしょうか。日本の農産物も含めて、発展する途上で今までもずっと問題になっていましたよね。

【事務局】

農業、農地は生物多様性に極めて関係してくるものですので、今後の議論の中でも取り上げる時間があると思います。農業のあり方、薬剤を使うという部分に関しても生物多様性と深く関わってくる部分があると思います。そういった意味では農業のあり方ということもテーマに挙がる可能性があると思います。

なので、今後、生物多様性の取組として、そのテーマをどう盛り込んでいくかというのは、今後議論させていただきますが、その際には、申し訳ありませんが、今我々には農業施策に関する詳しい情報がないので、農業のあり方に関して、我々市としてどういうアプローチをしているか、また、市だけでなく農業の業界全体でどういう取組がされているかを整理して皆さんに情報をご提供して、改めて施策に落とし込むかどうかを議論したいと思っております。大変重要なテーマだと認識しております。

【委員】

追加ですが、水田が多いということは水路を確保しなくてはいけないということになりますよね。その水路のあり方によっては、生物多様性が実現しやすい環境づくりになると思います。例えば、農工大の分倍河原の税務署前の田んぼの水路はどこから来ているのですか。

【委員】

あれは井戸水を汲み上げているのです。

【委員】

そうなのですか。西府崖線下の湧き水の水路がありますけれども、私はあれから引っ張れないのかなと。そんなに水量が多いようには思えないのですけれども、そういうつながりがあれば国立の谷保天神からもずっとつながって、そうするとホテルの生息も可能になる可能性があるのではないかと見ていますが、その辺はどうなのでしょうかね。

【部会長】

その辺りは詳しくないものですから専門の先生に聞いてみないと分かりませんが、農工大のほうでもあそこの水田は新たなプロジェクトを立ち上げてもっと盛り上げようとしているということをこの間の教授会の資料で見たので、詳しく聞いてみたいと思います。

【委員】

今、委員からご指摘いただいた水辺の関係ですが、田んぼを含んで府中市にも何件か湧水があるかと思えます。今日は農工大の先生もいらっしゃいますが、水辺環境は生物多様性に非常に重要だということは我々も認識しています。東京都には、府中市だけではなく崖線沿いに湧水がかなり出てきていますので、その辺の重要性は重視したいと考えております。

これからいろいろな方針を立てていくにあたって、例えば保全をするにあたって水辺をどう捉えるのか、今ある崖線沿いの緑をどう捉えるのか、緑と水を一体的に捉えるのかとか、そういった視点で施策を考えていく必要があるのかなと感じています。

田んぼについても、都内ではどんどん減っているんですね。府中市は田んぼが残っている市で、それは生き物にとっては貴重な環境かなと思っております。ですから、水をどう

確保するのとかいろいろと、もしかしたら農業的にも難しい部分もあるのかもしれませんが、それが保全できる方向でいろいろな施策が考えられればいいかなと思います。

【部会長】

ありがとうございます。そういう新たな視点をこの2年間でまた入れていけたらと思います。

【委員】

これを作り上げたとき実りのあるものにするには、普及啓発が非常に大事だと思います。進める側だけではなくて、実際に行うのは我々だけではなく、市民のほうでもいろいろなことに携わっている方々ではないかと思うのです。

一例を申し上げますと、浅間山を歩いていまして来る方と口論になることがたまたまあるのです。例えば、私たちが草を刈ってまとめておきますね。それを片付けきれなくて置いておいたものを後で片付けたときに、それを目撃されて怒られました。それはなぜかという、ここには虫がいっぱい来るのだということと、きれいにし過ぎてしまったために、ほかの昆虫や何かがいなくなってしまうのだということなのですね。ですから、場所によって整備の仕方もいろいろあるかなと思います。ある程度放置しておく場所ですとか、あるいはちゃんときれいにする場所ですとか、そういうことを考慮したうえでの整備が肝心だと。

はなはだしいのは、歩いて餌をまいて小鳥を集める方です。その行為はたぶん禁止されていたりするのでしょうかけれども、鳥をいっぱい人が集めてくるのですね。その写真を写させて、それを集めたからと言って自慢する人が結構いるのです。自分の好きなことですとか、自分のやっていることに目線が行ってしまって、ほかのことを考えないということが多々あるような気がいたします。

ですから、そういうことを理解してもらうには、普及活動が大事なことかなと思います。この計画ができあがったあと、いろいろとイベントなどもやるのでしょうかけれども、そういうことを念頭に置いたイベントを組んだらいかがかなと思います。そういうところに力点を置いた計画を作ったらどうか。それをお願いしたいと思います。

【部会長】

ご意見をありがとうございます。

【事務局】

地域戦略の普及啓発もそうですが、今後いろいろな組み合わせで地域戦略を作っていくと思いますが、普及啓発の部分であるとか、お金の部分であるとか、どういう構成にしていくかというところは、皆様のご意見を踏まえながら組み上げていきたいと思います。組み上げる形は我々事務局のほうで考えるのですが、皆さんから自由にブレインストーミングみたいな感じで意見を出していただいて組み上げさせていただきたいと思いますので、こういった形でご意見をいただければと思います。

その中でも、方向性として、これで行かなきゃいけないと決めなければいけない部分があると思いますので、その合意形成みたいなところもこの中でしていただいて、それを我々が預らせていただくかたちで進めていきたいと思っております。

【委員】

今のお話を聞いて、今ある場所を守っていくことはもちろん大切ですが、府中市はかなり市街地化している場所でもありますので、研究を進めていくうえで、先ほど委員から過去とのつながりという話がありましたが、失われたものを再生していくということは、ある種盛り込んでいくといいのかなというのは感じたところです。

最後にちょっと重箱の隅をつつくようですが、資料4の「2.府中市の生物多様性に関する環境現況」18ページから21ページは2016年の国勢調査から引いた図だと思えますが、最後の21ページの一番下に「東京都レッドリスト、レッドデータブック2020参照」と書いてありますが、これはかなりランクが変わっています。ここに「2020参照」としてしまうとかなり齟齬がありますので、お気をつけいただければと思います。例えば、ミズハコベなどもランクが変わっていますし、ヒゲシロスズ、ショウリョウバッタモドキなんかは消えています。鳥でもアオゲラ、ウグイス、エナガが消えています。ドジョウは入ったしナマズは消えています。この辺は要注意願えればと思います。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

この資料はほかに使うことがあるのですか。それでしたらちょっと気になるところがありますので、直していただきたいと思います。府中市の湧水ですが、浅間山については浅間神社と書いてありますが、本来はおみたらしの祠の下から出ているのです。ですから、それも修正していただいたらよろしいかなと思います。

【委員】

浅間神社とは全く別の場所から湧いているものなのです。

【委員】

そうなのです。今、府中市で湧水は3か所と言われていますが、あそこは湧水と言っていいかどうか分からないくらい。にじみ出ている程度のものなのです。実際にはおみたらし神社の祠の下から出ています。あそこへ水を汲みに来たという昔の話もあるくらいです。おみたらし神社の間違いかなど感じますので、ここは出さなければいいのですが、出すようでしたら、それはちょっと注意していただければと思います。

【事務局】

お示ししました資料につきましては、さまざまな意見ですとかご指摘もございましたので、環境基本計画の冒頭の「府中市の概況」というところで、整理して記載させていただく予定です。この中のすべてを載せるわけではございませんので、ブラッシュアップしまして、誤りですとかご指摘があった部分につきましては修正したうえで掲載してまいります。

【委員】

資料4に、調査した昆虫や植物、鳥類、魚類が載っています。爬虫類はないのですが、ヘビとかトカゲやカエルなどはないのですか。

【事務局】

現状、調査している資料の中では爬虫類に関するデータがなかったのでここに載せていないのですが、何らかの調査がなされていてデータがある可能性はあります。今後は爬虫類に関してもデータがとれましたら、ご紹介してまいりたいと思います。

【委員】

魚でアユもいると思いますが、アユも入っていませんね。

【事務局】

そうですね。

【委員】

それと関連していますが、水辺の学校に関連している方が身近にいるのですが、何をやっているのか聞いたら、よく分からないと言うのです。私はそういうのは非常にいいと思うのですが、捕って食べるところまでやらなければ環境問題は解決しないのではと言うのです。捕る、育てる、食べるというところまでいかないといい環境とは言えないのではないかと常々思っているのです。

それには、どこでどういうふうになるか分かりませんが、多摩川は全長138キロあるわけですが、それに関連した流域の全自治体で同時に清掃日を設ける。そのためのサミットを、年1回か2年に1回か分かりませんが、そういうものを構築したらいいのではないかと。それは多摩川だけではなく、それに関連する日野・八王子から来る浅川とか程久保川とかいろいろな支流もありますけれども、そういった支流も同時に清掃日を設けなければ、プラごみも含めて川はきれいにならないのではないかと考えています。

それと、アユの遡上を目安にすれば、もうちょっと目標がはっきりするのではないかと常々思っていますが、それはどんなものでしょうか。

【事務局】

先ほど委員からお話がありました「食べる」というところですが、まさしく「生態系サービス」でまとめた中の「供給サービス」のところに関わってくる問題かと思えます。多摩川の魚や水生生物について知っていただくための水辺の学校のイベントなどもあります。その水辺の学校のイベントの中で、河口観察会を実施しております。府中市の多摩川は中流域になりますので、河口のほうで多摩川がどういう様子になるかを見てもらう。併せて、源流といって小菅村とか奥多摩のほうのものもやっていますが、その河口観察会では子どもたちにハゼ釣りをしてもらっています。その多摩川で実際に子どもたちが捕ったハゼをその場で調理して食べてもらうというのを今までやってまいりました。これは、今言った「生態系サービス」というところを、多摩川というごく近所の環境の中から得られるんだよということを自ら体験してもらうという趣旨でやってまいりましたので、まさしく委員がおっしゃったような重要さを我々も認識したうえでイベントにさせていただいたものの1つかと認識をしております。こういったイベントは非常に重要だと思っております。

【委員】

郷土の森の横のバーベキューをやれるところは今閉鎖していますが、あの辺がアユ釣りの名所になるような環境政策とか運動をすれば、もっと観光客も増えるのではないかと思います。

それと併せて、郷土の森は非常にいい森だと思います。ですから、生物多様性の重要な拠点になると思いますが、もうちょっと整備したらいいのではないかと思われるのが、わずかに水田がありますが、あの水田はどう役立っているのかといつも思っています。むしろ、大賀ハスの水田にしたほうが、現在大賀ハスを育てている修景池でやるよりも大賀ハスの育ちがいいはずです。町田の薬師池のハス田とか行田市の古代ハスなどを参考にしたら大賀ハスの存在ももう少し大きくなるし、郷土の森もよくなるのではないかと思います。

私もつい2、3日前にアジサイを見てきましたけれども、鎌倉よりもずっといいと思いますし、梅林も水戸の梅林よりも郷土の森のほうがいいのではないかと思える部分がある。だから、もう少し改良することによってね。

あそこも水は汲み上げ式なので、5時になると流れが止ってしまいます。その辺ももう少し考慮してほしい。水がないところでは生き物はいられませんから、何かの工夫があってもいいのではないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。ちょっと時間も押していますので、この件については一旦この辺りにして、次に進みたいと思います。

(6)「アンケート調査(案)について」、事務局から説明をお願いします。

(資料6～7を説明)

【部会長】

ありがとうございます。そうしましたら、少し量が多いので少し絞ったほうがいいかと思えます。この部会は生物多様性なので、生物多様性の部分を中心に意見を伺うということでもよろしいでしょうか。

私から1つ質問があるのですが、前回の審議会で、アンケート全体のボリュームが多すぎると答えにくいし回答者が減る、というご意見が確かあったと思います。その辺はもう変えない方針ですか。

【事務局】

ボリューム全体については、原案と枝番の3はほぼ変わっていません。自由記述欄等一部修正したところがありますが、現状お渡ししている案の中では、前回の審議会本会のと看からボリュームダウンしたところは含めておりません。今回、生物多様性の部分がメインでご意見をいただくことにはなりますが、この辺の質問は割愛してほしいといったご意見もありましたら、聞かせていただければと思います。以上です。

【委員】

アンケートについていつも疑問に思っているのですが、世間一般のアンケートもそうですが、ご多分に漏れずこちらでもその項目があるのが「どちらともいえない」とい

う項目です。「ある」「ない」「どちらともいえない」という質問の仕方があるけれども、「どちらともいえない」というのは何を期待してアンケートをするのでしょうか。

例えば、市民アンケートの6ページの問12とその下の問15です。問15の「どちらかといえば関心がある」とか「どちらかといえば関心がない」の「どちらかといえば」というのは非常にいいと思うのですが、問15にも「どちらともいえない」がある。「どちらともいえない」は何を期待して設けているのかいつも疑問に思っています。これはないほうがいいのではないかと思います。

【事務局】

「どちらかといえばいい」「どちらかといえば悪い」という答えだけだと、やはりどちらかに誘導するようなかたちになってしまいます。その件についてまだ何も考えていないという方もいらっしゃるかと思います。そういったものについて把握するといったところで、「どちらともいえない」という項目があると捉えています。

【委員】

分からないときは、みんな「どちらともいえない」に丸をつけてしまうのではないかと思います。そうすると何も期待できない。

【事務局】

もし、「どちらともいえない」といった答えが多い場合は、そういった課題の捉え方をされていない市民の方が多いということになると思います。

【委員】

世論調査でも、「どちらともいえない」というのは、何を期待して調査しているのかいつも思いますが、その辺は学問的にはどうなのですか。

【部会長】

よく設計されたアンケートの場合でしたら、この設問同士をクロス集計といって、ある回答をした人がほかの質問でどう答えているかという関係を見ることで、やっと1つのことが見えるように設計されている場合もあります。ですから、これを作った方がいらっしゃると思いますが、その辺の分析で、本当に知りたいところまで持っていけるように考えて、「どちらともいえない」が入っている場合もあります。ただ、今はまだ分かりませんが。

【委員】

問15のように、「どちらかといえばある」とか「どちらかといえばない」というものがあって、「どちらともいえない」があればまだいい。その上の問12の「ある」「ない」「どちらともいえない」というのは、何を求めているのか分からない。

【事務局】

生物多様性は、枝番3の資料の問26は「どちらかといえばある」「どちらかといえばない」があって「どちらともいえない」というものがありますが、委員としてはこういった形の設問であればよいということなのではないでしょうか。

【委員】

私も「どちらともいえない」は乱発しないほうがいいとは思いますが、恐らく前回も同じようなアンケートをやっていて、それとの比較が大きな目的だと思いますので、その意味では今回、回答の仕方をあまり変えてしまうと比較ができなくなるので、そこは考えたうえで必要なところは残してもいいと思います。

【部会長】

あえて同じ設問が入っている場合もあるんですね。

【委員】

ええ。

【委員】

総合的な話ですが、よろしいですか。前回の本審議会のときに、回答率が悪いというお話がありました。回答は郵送で返してもらうのですね。当然若い方にも回答を期待するというのであれば、例えばウェブやスマホ等でも回答ができるようなことは考えられているのでしょうか、ということが1つです。

あとは、今後アンケート結果をどうやって施策に結びつけるのかにもよりますが、1500人無作為抽出という形式をとっていますが、年代の配分は考えられているのでしょうか。この2点を確認させてください。

【事務局（株式会社建設技術研究所）】

はい、お答えいたします。まず、ウェブのほうはいかがかという点ですが、今まさにウェブのほうも考えております。おっしゃるとおりでして、弊社もご支援していると、よく郵送ですと高齢の方に偏ってしまうというような特徴がございます。ですので、ウェブのほうで、できるだけ若年層ですとか若い年代の方からも回答が得られるようにということで、今、事務局様とかなり調整しているところです。

もう1点、年齢に関しましては、今府中市様の住民基本台帳から無作為抽出をいただくことになっておりますが、まず基本はその名のとおり無作為抽出というかたちになるかと思っております。ただ、ほかの自治体様の事例でいきましても、年齢で分けながら抽出しているようなパターンも、階層的な無作為抽出を図ることもございますので、その辺りはまた事務局様と詰めていくかたちになるかと思っております。

【委員】

ありがとうございます。

【委員】

資料6の3、6ページの問7についてです。これまで継続しているのでその傾向を知るために変える必要がない、と言われるとどうしようもないのですが、この問7の2と3は、多分環境政策課として環境保全活動センターをどれだけ活用しているかとか、ここがこれだけ頑張っているとか、その辺の傾向を知りたいということで書いていると思いますが、2と3を読むとあまり変わらないのです。

2は運営にも積極的に参加する、3は情報収集ではなく環境保全センターに情報を提供しているに主眼を置いて2つに分けている気もしますが、言わんとしているのは、環境保全活動センターをきっちり利用しているいろいろなことに活用していますよ、みたいなことですので、本当はそういうことを聞けばいいのかなと思いました。

ざっと最初に読んで、2と3を明確に分けないとアンケートとして体をなさないのだということまであるのか。これは継続だから前と比べて変化しているのか見るのだと言われるとどうしようもないのですが、わざわざ2と3を分けたほうがやっぱりいいのですか。前半は一緒なのですよ。

【事務局】

ご意見をありがとうございます。こちらに関しては、地域戦略に直結する質問ということではなく、関係性のある環境全般の質問ということで入れさせていただいているものですので、委員のご意見をお預かりさせていただいて、アンケート全体について事務局だけでなく、温暖化部会、審議会本会と共有して検討させていただきます。

【部会長】

ほかにありますでしょうか。

文章の言い回しなどは、ここで出すと多分いろいろな案が出てしまいますので、あとからメール等で送っていただくというのもありですよ。

【事務局】

はい。

【部会長】

適切な表現の案等ありましたら、あとから送っていただけたらと思います。ここで考えるとしたら、案の2と3のどちらがいいか。

【事務局】

はい。そうですね。ありがとうございます。先ほど申し上げたとおり、事務局としては枝番の3がフォーマットとしてはいいのかなという印象を持っております

この部会だけでなく温暖化部会等の意見も踏まえて決めていくことになりますが、この部会の中でこの構成がいいのではないかという意見の集約ができれば、次の温暖化部会等も進めやすくなるかなというところがありますので、その辺りについてご意見をいただきたいと思います。

要するに、1番か2番か3番か、もしくはそれをベースにこういうことを書いたらとか、その辺のご意見や、生物多様性に関わる設問内容で何かありましたら、ご意見をいただければと思います。

【部会長】

設問の最後に、「継続」とか「新規」とかありますが、「継続」とあるのは、前回と同じ設問ということですか。

【事務局（株式会社建設技術研究所）】

そのとおりです。説明文の最後に「継続」ですとか「新規」という言葉を括弧書きで入れているかと思います。

【部会長】

言い回しだけではなく、設問の内容なども大きく変えたとしたら、「新規」のほうは思いつき切り変えることも可能ということですかね。問2 1、案3のほうだと問2 6ですね。

【事務局】

先ほど部会長からご説明いただきましたが、この部会のあとでもアンケートに関するご意見はメール等で受け付けさせていただいています。今日すべてお伝えいただかないと、ということではありませんので、そういった機会は設けさせていただいております。

また、「継続」についても、あくまでも事務局案として、経過を確認したほうがいいのではないかとということで設けているものですが、もうこれは聞く必要がないだろうというご意見もございましたら、いただければと思っております。すべてこのままで行くのだということではございませんので、ご理解いただければと思います。

【部会長】

比較対象となる前回行ったアンケートは1回ですか。それとも何回かこれできているのでしょうか。

【事務局】

計画策定時にとったアンケートですので、1回になります。

【部会長】

1回だとしたらやはりもう1回聞いたほうが良いような気がします。やはり比較してみないと何も分からないこともあると思いますし。回答者の方にご負担にならない範囲で、「継続」に関しては基本的にはもう一度やってみるという方向でいかがですか。

【事務局】

特に、資料6の3の15ページ、16ページの辺りで、部会として何かご意見がいただければありがたいと思います。

【部会長】

今日はコロナの影響がありまして、午後3時20分ぐらいで終わりにする予定ですが、3時47分になっていますので、一旦締めたいと思います。

継続して改善していけるスケジュールになっているということですので、委員の皆様からは気づいた時点でメールをお送りいただくとともに、次の会で引き続き改善版を見ていただくようにできるそうですので、宿題のような形にさせていただけたらと思います。

【事務局】

我々はアンケートに近い「市政世論調査」といったものも毎年行っております。そこに生物多様性に関する特設設問を何問か用意して、市民の方にお答えをいただいております。それとはまた別に今回アンケートをやりますので、そういった形で見いただければ

また意見も出てくるかなと思います。後ほどそれも参考に送らせていただきますので、よろしく願いいたします。

【部会長】

では、すみませんが、先に進ませていただきます。

それでは、今日の議題は以上となります。

次に「3 その他」ですが、事務局から何かありますか。

【事務局】

はい、部会長。

次回の部会の日程ですが、現在会場等を調整中でございます。詳細が決定しましたらあらためてご連絡いたしますのでよろしく願いいたします。

また、議題(2)の日程でもご説明しましたとおり、7月に観察会の開催を予定しております。後日メールまたはご郵送にてご参加のご希望とご予定をお伺いさせていただきます。ご回答をいただいたのち、事務局にて調整の上、日程と会場を決定させていただき、あらためてご連絡を差し上げたいと存じます。なお、なるべく皆様のご都合の良い日時に設定させていただきたいと思いますが、調整困難な場合はご参加できる方の多い日時にて実施させていただきますので、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

また、アンケート調査(案)についてご報告いたします。本部会での議論と、後日開催されます地球温暖化対策部会での議論を踏まえまして、内容を精査したものを、後日委員の方々に送付させていただきます。委員の皆様におかれましては、その資料を踏まえまして、再度ご意見等がございましたら、事務局の方にメール等をいただければと考えております。

なお、8月4日に開催します第2回審議会本会では、それらの意見を踏まえた確定版を決定させていただきますので、ご協力をよろしく願いいたします。

最後に、本日お配りした第2次府中市環境基本計画につきましてはすでにお配りしているものですので回収させていただきます。机の上に置いていただき、お帰りください。説明は以上となります。

【部会長】

事務局から今後の予定等について説明がありましたが、何かご質問やご意見等がありましたら、お願いします。

(発言なし)

【部会長】

それでは、これにて本日の審議会は終了いたします。

【事務局】

ありがとうございました。

終了